



# 時間と距離を 超越する通信の未来

中国総合通信局無線通信部陸上課

**水本 涼子**

MIZUMOTO Ryoko

- 平成22年 4月 総務省採用
- 中国総合通信局総務部総務課企画広報室
- 平成22年10月 中国総合通信局情報通信部電気通信事業課
- 平成24年 4月 総合通信基盤局電波部電波政策課
- 平成26年 8月 情報通信国際戦略局情報通信政策課管理室
- 平成28年 4月 現職

## Some One Week

### Monday

無線局 11 局の定期検査のため、他県へ出張。免許人と合流します。

### Tuesday

山から山へ移動する 2 日間の検査が終了。測定結果に問題がなくて一安心。

### Wednesday

定期検査の報告書を作成。免許人からの聞き取り内容を共有します。

### Thursday

申請を許可し免許状を発給。工場で業務連絡するための無線局が誕生。



### Friday

気象観測するレーダーの変更内容を審査。過去の経緯も調べます。

### 『目に見えない存在の交通整理』

目覚まし時計で起床し、テレビで天気予報を見ながら支度して、携帯を持って出勤。電波を受信して自動で時刻を合わせる電波時計、テレビも携帯も電波を使って映像や音声等を届け、天気予報も気象を観測するレーダーという電波を使っています。朝の時間だけ見ても、私たちの生活はこれだけ電波という目に見えない存在に支えられています。

電波は、みんなが自由に使うと、お互いに干渉して、みんなが使えなくなるという性質を持っています。そのため、電波法という法律で電波を使うための仕組みを定めて、電波の世界の交通整理を行っています。私が所属している陸上課では、電波法に基づいて、携帯や消防、警察、電車、バス、高速道路など、陸上で電波を使う場合の許認可業務を行っています。電波を使いたい人の申請書を審査し免許状という形で許可することにより、目に見えない電波の世界の交通整理を行い、テレビや携帯などが当然に使える状態を維持しています。

### 『レベル1からの育成』

私は、高校では物理を選択せず、大学入試では数学を使わず、法学部を卒業しました。採用時の私の通信分野に関する知識は甚だしく不足していました。

そんな私が入省して実感したことは、職員は育成されているということです。最初はレベル1が当たり前で、いきなり強敵とは渡り合えません。今でも仕事内容で難しい部分はありますが、周囲の方に教えていただいたり、難易度に応じて案件を任せられたりして経験値を積んでいく中で、自分が職員として育てられていると感じています。

興味を持つことができれば、知識や経験は後からついてきます。通信は、遠く離れた場所を瞬時に繋ぐという意味で、時間と距離を超越する技術であり、多くの分野に親和性があります。教育でも医療でも農業でもICTで新たな挑戦が行われており、未来の生活は通信無くしては成り立ちません。少しでも興味を持ち、成長したいという気持ちがあれば、職員としての資質は十分です。ぜひ一緒に働きましょう！

## Private Time



学生時代には体育の授業でしか経験なかったテニスを、就職してから職場の方に誘われて始めました。テニススクールに通ったり職場の方に教えていただいたりしながら、週末に練習しています。時には、遠出してテニスをすることもあります。写真は、能登でテニスをするために、関東、北陸、近畿、中国の各地から集まったときのものです。